

勇気を出して

水俣市立袋中学校 2年 辻 水野

これは私が小学校高学年頃の出来事です。

私は友達と遊んでいました。話をしながら道を歩いていると、前の方でシルバーカーを押しながらおばあさんが歩いていました。後ろから歩きながら見ていると、シルバーカーの中にはたくさんの荷物が入っていました。私はその横を通る時、何故だか気まずく、友達と話すことをやめ黙って歩きました。「手伝います。」と声をかけた方が良いのではないかと迷いましたが、すぐに「止めよう。」と思いました。

小さかった時は少し迷いながらも、声かけが出来たかもしれません。ですが以前、同じように声をかけた時「ありがとう。でも大丈夫だよ。」と言われ、何故かその後恥ずかしくなって、無理に親切心で声をかけることを恥ずかしいと思うようになりました。

だから、たくさんの荷物を押しながら歩いているおばあさんの横を通り過ぎていくのが嫌で、遠くを見ながら早歩きで進みました。おばあさんのすぐ横を通った時、友達が「手伝いましょうか。」と声をかけました。私は驚くと同時に、友達の行動がとてもしっかり見えました。また、親切心で声をかけることが少しも恥ずかしくないと考えました。そして、友達の行動を見た私は、足が動いて「手伝います。」と言って、友達と一緒に荷物を持ちました。「ありがとう。じゃあそこまで。」とおばあさんが笑顔で言ってくれました。

少し恥ずかしかったのですが、この間の恥ずかしさとは全く違い、この行動がとて誇らしく思えました。そして、おばあさんの言葉は、とても嬉しく感じました。一緒に歩いたのはすぐそこまででしたが、荷物をおばあさんに渡すとまた「ありがとう。」と言ってくれて、すごく嬉しかったです。

私が友達に「すごいね。」と言うと、友達が「少し恥ずかしかった。」と答えたことが衝撃的でした。自然とおばあさんを助けましたが、恥ずかしいという気持ちは私と同じだったということに私は驚きました。でも、そのおかげで私は「手伝いましょうか。」と言う勇気が持てました。

自分の思う親切が、実際、行動に移せなくても、その親切が相手にとって嬉しいことに繋がると、結果的に自分も嬉しくなるということはとても凄いいことだと思いました。だから私は勇気を出して、これからも困っている人に声をかけて、相手が嬉しくなるような親切をしていきたいと思います。